

大伴小だより

富田林市立大伴小学校 令和5年2月28日(火) 3月号



まもなく卒業する6年生へ

校長 堤 周作



新型コロナとインフルエンザの同時流行が心配される中、本校では流行が比較的抑えられ、学年や青空の参観を4年振りに実施できました。素直な大伴っ子は、参観となるといつも以上に張り切ります。参観は子どもたちの学校生活にメリハリをもたらすとともに、保護者の皆様にお子様の成長を実感頂けるよい機会であると考えます。お忙しい中、ご参観頂きありがとうございました。

校内では、河津桜や園芸栽培委員と植えたチューリップが芽吹き始め、卒業式や入学式をお祝いしようと待ち望んでいるようです。6年生の卒業まであと半月余り。今年の6年生の特徴は、児童数が他学年より10数人多く(37人学級)、大伴小で1学級35人を超える学年は、この6年生が恐らく最後になるでしょう。また、少し大人びた雰囲気中学生っぽい学年でした。その分、周りに気を遣っているのか、例年の6年生より、あまり自分をさらけ出たがらない子が多いようにも見えました。その6年生も卒業が近づき、私も飛び込みで授業したり、他愛のない話をしたりして、遅ればせながら子どもたちの個性が見え始めました。今号が最後になる6年生に向けて、成人の日に朝日新聞(天声人語)に掲載されていた話を、一部引用要約し、贈ります。

～中略～

このように、「普通」とは何かを悩み続けてきたナー ज्याさんは、若者にこんな言葉を贈っています。「他人との違いを自分で発掘していくのが大人の旅かな」「子どもの時は普通になりたいのに、大人は『普通だね』と言われるのが一番ショックです」と。でも他の人との違いを示すのは簡単ではありません。「私も自信はありません。しかし、自分の一番弱い、すぐに壊れてしまいそうなことをさらけ出せばいいのではないのでしょうか。」

それが個性を出すということだから」
<参考:一部引用>2023年1月9日朝日新聞朝刊

6年生の皆さん、思春期には周りから出すぎないように気を遣いがちですが、実は、自分を周りに合わせすぎる必要はないのです。だからと言って、無理に個性(違い)を作り出す必要ありません。自分を気にかけしてくれる親友や家族、先生たちの助言や叱責を素直に受け止め、自分の個性(得意な事、普通とは違う自分)を発掘する旅を一步一步、歩んで下さい。「出会いは人生を豊かにし 別れは人生を深くする 出会いと別れが人間を育てる」(3年生と行った寺内町のお寺掲示板より)。卒業しても、いつまでも、応援しています!



↑6/11 修学旅行ホテル前にて学年全体



↑6/10 ホテルのお土産屋の前で
↓10/29 運動会「一心」



2/22 お別れ遠足、太秦映画村 ↑1組 ↓2組



「大伴スマイルフラワー」の後期の様子も、富田林市社会福祉協議会の「つながり TonTonTube」にアップされました。是非、ご覧ください!(右のQRコードからご覧ください)

来年度も事業を申請中で、この取組みを今の4,5年生に引き継ぎ、更に発展させたいと考えています。

【「大伴スマイルフラワー」設置協力施設(敬称略)】 大伴小校区 20 か所

南大伴町会館(南大伴福祉委員会)、寿美ヶ丘公園(南寿美ヶ丘福祉委員会)、柳生苑(養護老人ホーム)
拓作業所(生活介護)、かがりの郷、東公民館、今城クリニック 和が家(看護小規模多機能型居拓介護)、大伴郵便局
勝山歯科、サンプラザ 山中田店、JA 大阪南 大伴支店、勝山商店、大伴保育所、大伴幼稚園、大伴小学校、
<新規>東板持集会所、北大伴町中央掲示板前、GH なないろ(グループホーム)、くまざき歯科

